

IBM InfoSphere Optim

バージョン 2 リリース 2 モディフィケーション 2

IBM Optim Manager の使用



IBM InfoSphere Optim
バージョン 2 リリース 2 モディフィケーション 2

IBM Optim Manager の使用



注記

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、29 ページの『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

本書は、IBM Optim ソリューション コンポーネントのバージョン 2、リリース 2、モディフィケーション 2、および新しい版で明記されていない限り、以降のすべてのリリースおよびモディフィケーションに適用されます。

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原典： IBM InfoSphere Optim
Version 2 Release 2 Modification 2
Using IBM Optim Manager

発行： 日本アイ・ピー・エム株式会社

担当： トランスレーション・オペレーション・センター

第1刷 2011.5

© Copyright IBM Corporation 2008, 2011.

目次

本書について	v
------------------	---

第 1 章 InfoSphere Optim ソリューションのコンポーネント 1

Optim Manager	1
Optim Management Server	1
レジストリーおよびリポジトリー	1
Optim Proxy	2
Optim Executor	2
他のサービス実行コンポーネント	2
Manager およびその他のコンポーネントを使用した、 レジストリー内のサービスの実行方法	3

第 2 章 アプリケーション・サーバー上の Manager の開始 5

アプリケーション・サーバー上の Manager へのアクセス	5
Manager のアクセシビリティ機能	6

第 3 章 Manager の構成 9

レジストリーの場所の設定	9
Manager への Management Server の追加	10
Management Server へのライセンスの追加	10
Manager への Proxy の追加	11
リポジトリーへのデータベース・ドライバーの追加	12
Management Server および Proxy に対するサービスの割り当て	12
サービスのサービス計画の変更	13

1 つのレジストリーから別のレジストリーへのサービスのプロモート	13
ファイルへのサービスのエクスポート	13
ファイルからのサービスのインポート	14

第 4 章 Manager の使用 15

サービスの実行	15
サービスのスケジューリング	16
サービスの停止	16
Manager を使用してサービス・インスタンスの状況を モニターする	17

第 5 章 コマンド行の処理の使用 19

コマンド行のパラメーター	23
コマンド行の例	23

付録. Optim Manager のユーザー・インターフェースのリファレンス 25

ダッシュボード	25
構成	26
サービス管理	26
サービス・モニター	27
設定	27

特記事項 29

商標	31
--------------	----

索引 33

本書について

本書では、レジストリー内にあるサービスを実行して管理するように、IBM Optim Manager を構成して使用する方法を説明します。

第 1 章 InfoSphere Optim ソリューションのコンポーネント

レジストリーに公開された IBM® InfoSphere™ Optim™ サービスを実行するには、InfoSphere Optim ソリューションのコンポーネントを使用します。InfoSphere Optim サービスの開発およびテストを行うには、IBM Optim Designer を使用します。サービスの開発が完了したら、後工程のテスト用または実働用にレジストリーにサービスを公開することができます。

Optim Manager

IBM Optim Manager は、サービスの構成、実行、モニター、および管理を行うために使用できる Web アプリケーションです。さらに、Optim Manager を使用して、これらのサービスを実行するために使用されるコンポーネントを構成することもできます。この Optim Manager は、*Manager* と呼ばれます。

IBM Optim Designer を使用して開発したサービスを実行するには、Optim Designer から Manager にアクセスしてください。(この Optim Designer は *Designer* と呼ばれます。) サービスの開発が完了したら、Manager を使用してレジストリーにサービスを公開できます。または、Manager を使用してファイル・システムにサービスをエクスポートすることもできます。

レジストリーに公開したサービスの実行や管理を行うには、アプリケーション・サーバーから Manager にアクセスしてください。Manager は、サポートされているすべてのアプリケーション・サーバーにデプロイできる Web アーカイブ (WAR) ファイルとして提供されます。例えば、Manager を WebSphere® Application Server Community Edition にデプロイできます。こうすることで、アプリケーション・サーバー上の Manager にアクセスし、Manager を使用して任意のレジストリーでサービスを実行したり管理したりすることができます。

Management Server WAR ファイルと Manager WAR ファイルを、同じアプリケーション・サーバーにデプロイすることも、それぞれ別のアプリケーション・サーバーにデプロイすることもできます。

Optim Management Server

IBM Optim Management Server は、レジストリーとリポジトリにあるサービスに対するサービス要求を管理したりモニターしたりする Web アプリケーションです。Optim Management Server は、レジストリーとリポジトリをホストすることもできます。この Optim Management Server は、*Management Server* と呼ばれます。

Management server は、サポートされているすべてのアプリケーション・サーバーにデプロイできる Web アーカイブ (WAR) ファイルとして提供されます。例えば、Management server を WebSphere Application Server Community Edition にデプロイできます。Management Server と Manager を、同じアプリケーション・サーバーにデプロイすることも、それぞれ別のアプリケーション・サーバーにデプロイすることもできます。

レジストリーおよびリポジトリ

レジストリーは、サービスおよび他のリソースが登録されているサブシステムです。レジストリーは、サービスおよびリソースの場所を指定するために使用されます。リポジトリは、データおよび他のアプリケーション・リソースのための永続的なストレージ域です。

レジストリーおよびリポジトリーは、Management Server とともにインストールされ、Management Server と同じコンピューターに置かれます。

Optim Proxy

IBM Optim Proxy は常に実行されているプロセスであり、サービス要求を Management server から受け取り、処理するサービス要求を転送します。Optim Proxy は、サービス要求が完了するまで、実行中のサービス要求をモニターします。この Optim Proxy は、Proxy と呼ばれます。

Proxy がサービス要求を転送するコンポーネントは、サービスのタイプによって異なります。サービスのタイプによっては、Proxy が Proxy コンピューター上のコンポーネントのインスタンスを開始する場合があります。（例えば、Proxy が Executor のサービス要求を受け取ると、Proxy は Proxy コンピューター上の Executor のインスタンスを開始します。）それ以外のタイプのサービスの場合、Proxy はサービス要求を別のコンピューター上のサービス実行コンポーネントに送信します。サービス要求が完了すると、Proxy は、サービス要求の状況を Manager と Management Server に返します。

高速パフォーマンスを実現するには、処理するデータ・ソースへの高速接続を持ったコンピューターに Proxy をインストールします。サービス実行コンポーネントを Proxy コンピューターで実行すると、パフォーマンスが向上する可能性が高くなります。

Optim Executor

IBM Optim Executor は Executor をサービス実行コンポーネント（サービス・タイプ **Executor**）として指定するサービスを処理するために起動されるプロセスです。Optim Executor には、データベースと通信を行う際に、またはサービスに必要なその他のタイプのリソースと通信を行う際にサービスが使用するフレームワークが用意されています。この Optim Executor は、Executor と呼ばれます。

Executor をサービス実行コンポーネントとして指定するサービスは、データ管理サービス と呼ばれます。

サービスを実行すると、Executor のインスタンスが起動され、Executor はサービスを処理します。Executor がサービスを完了すると、Executor はサービスが完了したことを Executor を起動したコンポーネントに報告します。その後、Executor は終了します。

Executor は Designer または Proxy と同じコンピューターにインストールされます。

ルックアップ・データを使用するサービスを実行するには、Executor がルックアップ・データへのアクセス権限を持っていることを確認します。ルックアップ・データは、Executor コンピューター上のデータベースまたは Executor コンピューターへの高速接続を持つコンピューター上のデータベースにロードします。

他のサービス実行コンポーネント

サービスのタイプによっては、Executor 以外のサービス実行コンポーネントが必要になる場合があります。例えば、サービスが、Optim for z/OS® で、あるいは分散プラットフォーム上の Optim で実行されるように開発されたものかもしれません。

このような他のサービス実行コンポーネントを使用するサービスを実行するためには、Designer または Proxy の構成が必要となる場合があります。特定のサービス実行コンポーネントを使用するサービスを実行

するための Designer の構成方法について詳しくは、Designer のユーザー情報を参照してください。特定のサービス実行コンポーネントを使用するサービスを実行するための Proxy の構成方法について詳しくは、Proxy の構成情報を参照してください。

Manager およびその他のコンポーネントを使用した、レジストリー内のサービスの実行方法

サービス要求を正常に完了させるには、コンポーネントが連動していなければなりません。

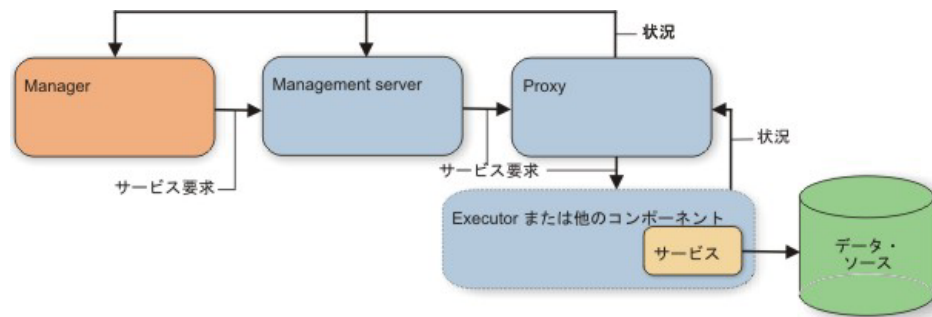


図 1. サービスを実行するコンポーネント

この図には、コンポーネントがどのように連動し、サービスを実行するかが示されています。

1. アプリケーション・サーバー管理者が Management Server と Manager を開始し、Proxy コンピューターの管理者が Proxy を開始します。Management Server、Proxy、および Manager は、継続的に実行されるように設計されています。
2. オペレーターは Manager を使用して、サービスを実行、またはスケジュールします。
3. Manager は、サービスが割り当てられている Management Server のいずれかにサービス要求を送信します。
4. Management Server は、そのサービスが割り当てられた Proxy の 1 つにサービス要求を転送します。
5. Proxy は、サービスに指定されたコンポーネントを使用して、サービスを開始します。Executor によって実行されるサービスの場合、Proxy は Executor のインスタンスを開始してサービス要求を処理します。別のコンポーネントによって実行されるサービスの場合、Proxy はそのコンポーネントにサービス要求を渡します。
6. Executor またはその他のサービス実行コンポーネントがサービスを実行します。
7. サービスは、そのサービス計画に含まれるタスクを実行します。
8. Executor によって実行されるサービスの場合、Proxy は、Executor がサービスを実行する間、その Executor を継続的にモニターします。
9. サービスが完了すると、Executor またはサービスを実行したコンポーネントがサービス要求状況を Proxy に返します。Executor のインスタンスも自動的に終了します。
10. Proxy は、サービス要求状況を Management Server と Manager に返します。

第 2 章 アプリケーション・サーバー上の Manager の開始

レジストリーに置かれているサービスの実行と管理を行うには、最初に Manager をアプリケーション・サーバー上で開始する必要があります。Manager がアプリケーション・サーバーで開始されると、いつでも Manager にアクセスできます。

Manager を開始できるようにするには、先に Manager のインストールが必要です。Manager および Manager がサービス実行のために使用するコンポーネントの初期構成を実行することも必要です。例えば、Manager の WAR ファイルをアプリケーション・サーバーにデプロイする必要があります。

アプリケーション・サーバー上で Manager を開始するには、以下のようにします。

1. アプリケーション・サーバーを開始します。アプリケーション・サーバーが、Manager の Web アプリケーションを自動的に開始するように設定されている場合は、アプリケーション・サーバーの直後に Manager が開始されます。Manager を、Manager と共に提供されたバージョンの WebSphere Application Server Community Edition にデプロイした場合は、以下のステップを実行します。ここで、*shared_installation_directory* は Manager 用に指定したインストール・ディレクトリーです。
 - Microsoft Windows コンピューターの場合: 「スタート」 > 「すべてのプログラム」 > 「IBM Optim」 > 「WAS-CE の開始」の順にクリックするか、
shared_installation_directory¥WebSphere¥AppServerCommunityEdition¥bin¥startup.bat スクリプトを実行します。
 - AIX®, Linux、または Solaris コンピューターの場合: *shared_installation_directory*/WebSphere/AppServerCommunityEdition/bin/startserver.sh スクリプトを実行します。
2. 必要に応じて、アプリケーション・サーバー・コンソールを使用して、Manager の Web アプリケーションを開始します。Manager を、Manager と共に提供されたバージョンの WebSphere Application Server Community Edition にデプロイした場合は、以下のステップを実行して Manager の Web アプリケーションを開始します。
 - a. Web ブラウザーを使用して、管理コンソールにアクセスおよびサインインします。デフォルトの場所は `http://hostname:port/console/` です。ここで、*hostname* は WebSphere Application Server Community Edition コンピューターのホスト名または IP アドレスであり、*port* はポート番号です。デフォルトのポート番号は 8080 です。ユーザー ID `system` およびパスワード `manager` を使用して、管理コンソールにアクセスします。
 - b. 「Web アプリケーション WAR (Web App WARs)」をクリックします。
 - c. `/optim` の URL を指定してコンポーネントの「開始」をクリックします。

アプリケーション・サーバー上の Manager へのアクセス

レジストリーに置かれているサービスの実行や管理を行うには、アプリケーション・サーバーにデプロイされる Manager のインスタンスを使用する必要があります。

アプリケーション・サーバー上の Manager にアクセスするには、以下のようにします。

Manager にアクセスするには、Web ブラウザーを使用して Manager にアクセスおよびサインインします。ロケーションは次のとおりです。ここで、*hostname* および *port* は、Manager がデプロイされているアプリケーション・サーバーのホスト名およびポートです。

- デフォルトのカラー・スキームの場合、`http://hostname:port/optim/console` を使用します。

- 白の背景に黒のテキストを使用するハイコントラスト・カラー・スキームの場合、
`http://hostname:port/optim/console#contrast=bw` を使用します。
- 黒の背景に白のテキストを使用するハイコントラスト・カラー・スキームの場合、
`http://hostname:port/optim/console#contrast=wb` を使用します。

Manager と WebSphere Application Server Community Edition を同時にインストールし、その WebSphere Application Server Community Edition に Manager をデプロイした場合、デフォルト・ポートは 8080 です。

Manager にアクセスできない場合、以下の条件が満たされていることを確認してください。

- Manager がデプロイされているアプリケーション・サーバーで Manager が開始されている。
- Manager がデプロイされているアプリケーション・サーバーに、ご使用のコンピューターからアクセスできる。
- Web ブラウザーが Manager によってサポートされており、サポートされているバージョンの Adobe Flash Player プラグインが Web ブラウザーで使用されている。

ブラウザーを使用して、今後のアクセス用にロケーションのブックマークを付けることができます。

Manager のアクセシビリティ機能

Manager には、ユーザー・インターフェースの表示、読み取り、および使用をより簡単にするための機能が含まれています。

支援機能の使用

Manager では、ユーザー・インターフェースに表示される情報を音声で聞くための支援技術を使用できます。支援技術には、スクリーン・リーダーおよびデジタル音声合成装置が含まれています。これらの支援技術を Manager で使用する方法について詳しくは、使用する支援技術に関する製品資料を参照してください。

フォント・サイズの変更

「設定」を使用して、インターフェースで使用するフォント・サイズを指定できます。フォント・サイズの変更は、ローカル・コンピューターに保存されます。そのローカル・コンピューターのすべてのユーザーが次回 Manager にアクセスするときに、Manager は保存されているフォント・サイズを使用します。

ハイコントラスト・カラー・スキーム

デフォルトのカラー・スキームを使用する代わりに、Manager を読みやすくするためにハイコントラスト・カラー・スキームを使用できます。「設定」を使用して、インターフェースで使用するカラー・スキームを指定できます。カラー・スキームの変更は、ローカル・コンピューターに保存されます。そのローカル・コンピューターのすべてのユーザーが次回 Manager にアクセスするときに、Manager は保存されているカラー・スキームを使用します。

「設定」のカラー・スキームは、Manager にアクセスするのに使用する URL を変更することによりオーバーライドできます。テキストを黒、背景を白にするには、URL が `#contrast=bw` で終わるようにします。テキストを白、背景を黒にするには、URL が `#contrast=wb` で終わるようにします。

キーボード・ナビゲーション

インターフェースで、あるオブジェクトのフォーカスを別のオブジェクトに移動するには、Tab キーを押すか、Shift キーを押しながら Tab キーを押します。フォーカスのあるオブジェクトを選択するには、Space キーを押します。

オブジェクトに複数のパーツ (一連のタブなど) がある場合は、以下のステップをすべて実行することによりパーツを選択できます。

1. Tab キーを押すか、Shift キーを押しながら Tab キーを押して、オブジェクトにフォーカスを移動します。
2. 矢印キーを押して対象のパーツにフォーカスを変更します。
3. Space キーを押して対象のパーツを選択します。

ナビゲーション・ツリー内では、右矢印キーを押すとツリー・ノードが展開し、左矢印キーを押すとツリー・ノードが省略されます。

Manager に含まれているリストは、フォルダーを使用して編成されています。

- リスト内のフォルダーを省略するには、次のようにします。
 1. Tab キーを押して、リストを選択します。
 2. 矢印キーを押してフォルダーを選択します。
 3. テンキーの - を押します。
- リスト内のフォルダーを展開するには、次のようにします。
 1. Tab キーを押して、リストを選択します。
 2. 矢印キーを押してフォルダーを選択します。
 3. テンキーの + を押します。
- リスト内のフォルダーを省略または展開するには、次のようにします。
 1. Tab キーを押して、リストを選択します。
 2. 矢印キーを押してフォルダーを選択します。
 3. テンキーの * を押します。
- 「サービス管理」のリスト内のあるフォルダーから別のフォルダーへオブジェクトを移動するには、次のようにします。
 1. 矢印キーを押して、移動するオブジェクトを選択します。
 2. Ctrl+M を押します。フォルダー・リストのダイアログが表示されます。
 3. Tab キーを押して、フォルダーのリストを選択します。
 4. 矢印キーを押して、オブジェクトの移動先のフォルダーを選択します。
 5. Tab キーを押して、「OK」を選択します。
 6. スペース・キーを押します。

リスト内の項目を列ごとにアルファベット順でソートするには次のようにします。

1. Tab キーを押すか、Shift キーを押しながら Tab キーを押して、リストにフォーカスを移動します。
2. 下矢印キーを押して、リスト内の行にフォーカスを移動します。
3. フォーカスがリストの見出しに移動するまで、上矢印キーを押します。
4. 左矢印キーまたは右矢印キーを押して、最初にソートする列にフォーカスを移動します。

5. スペース・キーを押して、フォーカスのある列でリストをソートします。Ctrl キーを押しながらスペース・キーを押して、ソートの昇順と降順を切り替えます。
6. リストに 2 次ソートを追加するには、左矢印キーまたは右矢印キーを押して次に 2 次ソート列にフォーカスを移動し、Ctrl キーを押しながらスペース・キーを押します。
7. 別の列でリストをソートするには、左矢印キーまたは右矢印キーを押してフォーカスをその列に移動し、スペース・キーを押します。

日付ボックス内では、Ctrl キーを押しながら下矢印キーを押して、カレンダーを表示します。Page Down キーと Page Up キーを押してカレンダーの月を変更し、矢印キーを押してカレンダーの日を選択します。フォーカスが日付にある場合は、Enter キーを押せばその日付が選択されます。日付を選択しないでカレンダーを閉じる場合は、Esc キーを押します。

円グラフの情報を表形式で表示する

円グラフを、スクリーン・リーダーを使用して読み取り可能な表に変更するには、「ダッシュボード」ページの「サービス管理」ペインで、Tab キーを押して「**表形式ビュー**」を選択し、スペース・キーを押します。表を円グラフに戻すには、Tab キーを押して「**グラフ・ビュー**」を選択し、スペース・キーを押します。

詳細情報

Manager は、Adobe Flex テクノロジーを使用しています。このテクノロジーには、固有のキーボード・ナビゲーション・ショートカットがあります。Flex のアクセシビリティ機能に関する詳細は、以下の Adobe の Web サイトから入手できます。

http://livedocs.adobe.com/flex/3/html/help.html?content=accessible_5.html

第 3 章 Manager の構成

レジストリーに公開されたサービスを実行するには、これらのサービスを実行するために使用するコンポーネントを、管理者がまずインストールして開始する必要があります。管理者はその後、Manager をその他のコンポーネントに接続し、サービスを Management Server と Proxy に割り当てることができます。

開始する前に、Web ブラウザーを使用して Manager にアクセスおよびサインインする必要があります。デフォルト・ロケーションは `http://hostname:port/optim/console/` です。ここで、*hostname* および *port* は、Manager がデプロイされているアプリケーション・サーバーのホスト名およびポートです。

Management Server および Manager と共に提供されているバージョンの WebSphere Application Server Community Edition をインストールし、その WebSphere Application Server Community Edition に Manager をデプロイした場合、デフォルト・ポートは 8080 です。Manager にアクセスできない場合、Manager がデプロイされているアプリケーション・サーバーの管理者が Manager を開始していること、ご使用のコンピュータからアプリケーション・サーバーにアクセスできること、および Web ブラウザーが Manager によってサポートされており、サポートされているバージョンの Adobe Flash Player プラグインが Web ブラウザーで使用されていることを確認してください。

レジストリーの場所の設定

レジストリーに置かれたすべてのサービスを実行する前に、レジストリーにアクセスできるように Manager を設定する必要があります。レジストリーには、サービスと他のコンポーネントの場所および構成情報が含まれています。

レジストリーの場所を設定できるのは、ユーザー・ロールが `admin` のユーザーのみです。

デフォルトでは、Manager はレジストリーを `http://localhost:8080/server/registry` で検索するように設定されています。この場所は、Manager と Management Server が同じアプリケーション・サーバーにデプロイされており、アプリケーション・サーバーがポート 8080 を使用する場合に有効です。`localhost` をホスト名として使用することで起こり得る問題を回避するため、または、レジストリーを別の Management Server で使用するためには、`localhost` を Management Server のホスト名または IP アドレスに置き換えて、8080 をアプリケーション・サーバーで使用されるポートに置き換えます。この情報がない場合は、Management Server をデプロイするアプリケーション・サーバーの管理者にお問い合わせください。

Manager にレジストリーの場所を設定するには、以下のようにします。

1. アプリケーション・サーバーの Manager にアクセスします。
2. 「設定」をクリックします。
3. 「グローバル設定」をクリックします。
4. レジストリーの場所を「レジストリーの場所」に入力して、「検証」をクリックします。
5. レジストリーの場所が有効な場合は、「保存」をクリックします。

Manager への Management Server の追加

レジストリーに置かれているすべてのサービスを実行する前に、Management Server にサービスの割り当てを行う必要があります。サービスを Management Server に割り当てる前に、Management Server を Manager に追加する必要があります。

ユーザー・ロールが admin のユーザーだけが、Management Server を Manager に追加できます。

Management Server を Manager に追加する前に、Management Server をレジストリーに登録する必要があります。複数の Management Server を使用する場合、すべての Management Server がレジストリーに登録されるように以下のステップを実行する必要があります。

1. レジストリーをホストするコンピューターと他の Management Server の間のネットワーク接続が妨げられずに確保されていることを確認します。
2. レジストリーをホストするコンピューターの Management Server を実行します。
3. 他の Management Server を実行します。

Management Server を Manager に追加するには、以下のようになります。

1. アプリケーション・サーバーの Manager にアクセスします。
2. 「構成」をクリックします。
3. 「Management Server」をクリックします。
4. 「追加」をクリックします。
5. Manager に追加する Management Server の Uniform Resource Identifier (URI) をクリックし、Manager 内で Management Server に使用する論理名を入力して、「OK」をクリックします。追加する Management Server の URI のリストがダイアログに表示されない場合、以下のステップを実行します。
 - a. 追加する Management Server とレジストリーをホストする Management Server の間のネットワーク接続が妨げられずに確保されていることを確認します。
 - b. 追加する Management Server をシャットダウンして再始動します。

追加する Management Server の URI のリストがまだダイアログに表示されない場合、以下のステップを実行します。

- a. レジストリーをホストする Management Server をシャットダウンして再始動します。
- b. 追加する Management Server をシャットダウンして再始動します。

Management Server へのライセンスの追加

Manager を使用してライセンスを Management Server に追加します。ライセンスにより、ライセンスに指定されているタイプのサービスを Executor が実行できるようになります。例えば、データ・プライバシーのライセンスを Management Server に追加すると、Management Server により、データベース内のデータをマスクするサービスを、Executor が実行できるようになります。

ユーザー・ロールが admin または dba のユーザーだけが、ライセンスを Management Server に追加できます。

ライセンスを Management Server に追加する前に、Management Server を Manager に追加する必要があります。

このタスクは、Executor を使用して実行されるサービス (サービス・タイプは「**Executor**」) のライセンスに対してのみ適用されます。Executor 以外のサービス実行コンポーネントの場合、そのサービス実行コンポーネントに指定される手順を使用してライセンスを管理する必要があります。Executor 以外のサービス実行コンポーネントのライセンスを管理する方法については、サービス実行コンポーネントの資料を参照してください。

Manager を使用してライセンスを Management Server に追加するには、以下のようにします。

1. アプリケーション・サーバーの Manager にアクセスします。
2. 「**構成**」をクリックします。
3. 「**Management Server**」をクリックします。
4. 「**ライセンスの追加**」をクリックします。
5. ライセンスを追加する Management Server を選択して、Management Server ライセンスのライセンス・キーとライセンス・ファイル名を入力して、「**ライセンスのアップロード**」をクリックします。

Manager への Proxy の追加

Proxy を使用してレジストリーに配置されているサービスを実行する前に、Proxy を Manager に追加する必要があります。

ユーザー・ロールが admin のユーザーだけが、Proxy を Manager に追加できます。

Proxy を Manager に追加する前に、Proxy をレジストリーに登録する必要があります。Proxy がレジストリーに登録されるようにするには、以下のステップを実行する必要があります。

1. プロキシ・コンピューターとレジストリーをホストする Management Server の間のネットワーク接続が妨げられずに確保されていることを確認します。
2. レジストリーをホストする Management Server を実行します。
3. Proxy を実行します。

Proxy を Manager に追加するには、以下のようにします。

1. アプリケーション・サーバーの Manager にアクセスします。
2. 「**構成**」をクリックします。
3. 「**プロキシ**」をクリックします。
4. 「**追加**」をクリックします。
5. 追加する Proxy の Uniform Resource Identifier (URI) をクリックし、Proxy に使用する論理名を入力して、「**OK**」をクリックします。追加する Proxy の URI のリストがダイアログに表示されない場合、以下のステップを実行します。
 - a. プロキシ・コンピューターとレジストリーをホストする Management Server の間のネットワーク接続が妨げられずに確保されていることを確認します。
 - b. Proxy をシャットダウンして再始動します。

追加する Proxy の URI のリストがダイアログに引き続き表示されない場合、以下のステップを実行します。

- a. レジストリーをホストする Management Server をシャットダウンして再始動します。
- b. Proxy をシャットダウンして再始動します。

リポジトリへのデータベース・ドライバーの追加

Manager を使用してデータベース・ドライバーをリポジトリに追加します。Executor を使用して実行されてレジストリーに置かれているサービスがデータベースの内容を変更できるのは、リポジトリにデータベースのドライバーがある場合だけです。

ユーザー・ロールが admin または dba のユーザーだけが、データベース・ドライバーをリポジトリに追加できます。

このタスクは、Executor を使用して実行されるサービス (サービス・タイプは「**Executor**」) のデータベース・ドライバーに対してのみ適用されます。Executor 以外のサービス実行コンポーネントの場合、そのサービス実行コンポーネントに指定されている手順を使用してデータベース・ドライバーをインストールする必要があります。Executor 以外のサービス実行コンポーネントのデータベース・ドライバーを管理する方法については、サービス実行コンポーネントの資料を参照してください。

Manager を使用してデータベース・ドライバーをリポジトリに追加するには、以下のようにします。

1. アプリケーション・サーバーの Manager にアクセスします。
2. 「構成」をクリックします。
3. 「データベース・ドライバー」をクリックします。
4. 「データベース・ドライバーの追加」をクリックします。
5. ダイアログに入力して、「ドライバー・ファイルをアップロード」をクリックします。

Management Server および Proxy に対するサービスの割り当て

Manager を使用して、レジストリーにあるサービスを 1 つ以上の Management Server および Proxy に割り当てます。サービスを実行する前に、そのサービスは少なくとも 1 つの Management Server および Proxy に割り当てられている必要があります。

Management Server および Proxy にサービスを割り当てる前に、サービスをレジストリーに追加する必要があります。サービスをレジストリーに追加する様々な方法があります。

- Designer から、サービスをレジストリーに公開できます。
- Manager を使用して、サービスを 1 つのレジストリーから別のレジストリーにプロモートできます。
- Manager を使用してサービスをファイルからレジストリーにインポートできます。

サービスをリポジトリに公開する方法について詳しくは、Designer の資料を参照してください。

また、Management Server および Proxy も Manager に追加する必要があります。

Manager を使用して Management Server および Proxy にサービスを割り当てるには、以下のようにします。

1. アプリケーション・サーバーの Manager にアクセスします。
2. 「サービス管理」をクリックします。
3. 「未割り当てサービス」をクリックします。
4. 「未割り当てサービス」フォルダーを開き、サービスをクリックして、「割り当て」をクリックします。
5. ウィザードを完了します。

サービスのサービス計画の変更

サービス計画には、データ・ソース内のデータをトランスフォームするためにサービスで使用するデフォルト値（データ・ソースにアクセスするためのユーザー名およびパスワードなど）が含まれています。サービスをレジストリーに追加した後、Manager を使用してサービス計画内の値を変更できます。サービス計画をデフォルト値に復元することもできます。

サービスのサービス計画を変更できるのは、サービスが少なくとも 1 つの Management Server および 1 つの Proxy に割り当てられている場合だけです。Management Server および Proxy に割り当てられていないサービスのサービス計画を表示することはできますが、割り当てられていないサービス計画のサービス計画プロパティは変更できません。

Manager を使用してサービスのサービス計画を変更するには、以下のようにします。

1. アプリケーション・サーバーの Manager にアクセスします。
2. 「サービス管理」をクリックします。
3. 「割り当て済みサービス」をクリックします。
4. 「割り当て済みサービス」フォルダーを開き、さらにそのフォルダーにある、サービスの表示に必要なすべてのフォルダーを開いてから、サービスをクリックします。
5. 「サービス計画」をクリックし、目的にあわせてサービス計画を変更して、「保存」をクリックします。サービス計画に加えた変更はすべて、サービス計画を再び変更するか、またはサービス計画をデフォルト値に復元するまで保存されます。

1 つのレジストリーから別のレジストリーへのサービスのプロモート

サービスを 1 つのレジストリーから別のレジストリーにプロモートできます。例えば、Quality Assurance (QA) でテスト予定のサービスと本稼働可能なサービスのレジストリーを別々にしているかもしれません。サービスが QA プロセスを通れば、サービスを QA レジストリーから実動レジストリーにプロモートできます。

Manager を使用して、サービスを 1 つのレジストリーから別のレジストリーにプロモートするには、以下のようにします。

1. アプリケーション・サーバーの Manager にアクセスします。
2. 「サービス管理」をクリックします。
3. サービスが Management Server と Proxy に割り当て済みの場合は、「割り当て済みサービス」をクリックします。
4. サービスを表示するために開く必要のあるフォルダーを開き、サービスをクリックしてから「プロモート」をクリックします。
5. サービスをプロモートするレジストリーの場所を入力し、「検証」をクリックします。Manager は、サービスをそのレジストリーに公開するのに使用するバージョン番号を表示します。
6. 「OK」をクリックして終了します。

ファイルへのサービスのエクスポート

サービスをレジストリーからご使用のコンピューターのローカル・ファイル・システム上の .jar ファイルにエクスポートして、保存できます。jar ファイルには、XML Metadata Interchange (XMI) ファイルと、サービスの定義およびすべての関連オブジェクトが含まれています。

Manager を使用してサービスをレジストリーからファイルにエクスポートするには、以下のようにします。

1. アプリケーション・サーバーの Manager にアクセスします。
2. 「サービス管理」をクリックします。
3. サービスが Management Server と Proxy に割り当て済みの場合は、「割り当て済みサービス」をクリックします。
4. サービスを表示するために開く必要のあるフォルダーを開き、サービスをクリックしてから「ファイルとしてエクスポート」をクリックします。
5. ダイアログでサービスを保存する場所を選択し、「保存」をクリックします。

ファイルからのサービスのインポート

.jar ファイルからレジストリーにサービスをインポートできます。そのサービスがレジストリーに既に存在する場合、同じサービスの新規バージョンとしてレジストリーに追加されます。

サービスは、Manager の「設定」で設定されているレジストリーにインポートされます。

Manager を使用してサービスをファイルからレジストリーにインポートするには、以下のようにします。

1. アプリケーション・サーバーの Manager にアクセスします。
2. 「サービス管理」をクリックします。
3. 「未割り当てサービス」フォルダーをクリックします。
4. 「サービスをファイルからインポート」をクリックします。
5. ダイアログを使用して、ファイル・システムからファイルを選択し「開く」をクリックします。

第 4 章 Manager の使用

Manager を構成したら、その Manager を使用して、サービスの実行、サービスのスケジュール設定、およびサービスの進行状況のモニターを行うことができます。

開始する前に、Web ブラウザーを使用して Manager にアクセスおよびサインインする必要があります。デフォルト・ロケーションは `http://hostname:port/optim/console/` です。ここで、*hostname* および *port* は、Manager がデプロイされているアプリケーション・サーバーのホスト名およびポートです。

Management Server および Manager と共に提供されているバージョンの WebSphere Application Server Community Edition をインストールし、その WebSphere Application Server Community Edition に Manager をデプロイした場合、デフォルト・ポートは 8080 です。Manager にアクセスできない場合、Manager がデプロイされているアプリケーション・サーバーの管理者が Manager を開始していること、ご使用のコンピューターからアプリケーション・サーバーにアクセスできること、および Web ブラウザーが Manager によってサポートされており、サポートされているバージョンの Adobe Flash Player プラグインが Web ブラウザーで使用されていることを確認してください。

サービスの実行

Manager を使用して、レジストリーに公開されているサービスを実行します。

レジストリーに公開されているサービスを実行できるのは、サービスの実行準備ができていない場合のみです。実行準備ができていないサービスは、次の基準を満たしています。

- サービスは、少なくとも 1 つの、アクティブで Manager に接続されている Management Server に割り当てられている。サービスを実行するためにライセンスが必要な場合、この Management Server には、サービスの有効なライセンスが含まれていることも必要です。
- サービスは、少なくとも 1 つの、アクティブで Manager および Management Server に接続されている Proxy に割り当てられている。Proxy は、サービスに関連付けられたサービス・タイプを実行できるようになっていることも必要です。サービス・タイプが「**Executor**」および「**Distributed**」の場合、サービス実行コンポーネントがインストールおよび構成されていて、さらに Proxy がサービス実行コンポーネントを実行できるように構成されている必要があります。
- サービスに指定されているデータベース・ドライバーが、レジストリーにロードされている。

Manager を使用してサービスを実行するには、以下のようになります。

1. アプリケーション・サーバーの Manager にアクセスします。
2. 「サービス管理」をクリックします。
3. 「割り当て済みサービス」をクリックします。
4. 「割り当て済みサービス」フォルダーを開き、さらにそのフォルダーにある、サービスの表示に必要なすべてのフォルダーを開いてから、サービスをクリックします。
5. 「サービス計画」をクリックして、サービス計画プロパティを検討します。必要に応じて、サービス計画プロパティを変更してから「保存」をクリックして変更内容を保存します。サービス計画に加えた変更はすべて、サービス計画を再び変更するか、またはサービス計画をデフォルト値に復元するまで保存されます。
6. 「実行」をクリックして、ウィザードを完了します。

サービスのスケジューリング

Manager を使用して、レジストリーに公開されているサービスを、特定の Management Server で実行するようにスケジュールします。特定の時刻または特定の間隔でサービスが実行されるようにスケジュール設定できます。Management Server に関するアクティブなスケジュールが既にサービスにある場合は、その Manager を使用してそのスケジュールを変更します。

レジストリーに公開されているサービスをスケジュールできるのは、サービスの実行準備ができている場合のみです。実行準備ができていないサービスは、次の基準を満たしています。

- サービスは、少なくとも 1 つの、アクティブで Manager に接続されている Management Server に割り当てられている。サービスを実行するためにライセンスが必要な場合、この Management Server には、サービスの有効なライセンスが含まれていることも必要です。
- サービスは、少なくとも 1 つの、アクティブで Manager および Management Server に接続されている Proxy に割り当てられている。Proxy は、サービスに関連付けられたサービス・タイプを実行できるようになっていることも必要です。サービス・タイプが「**Executor**」および「**Distributed**」の場合、サービス実行コンポーネントがインストールおよび構成されていて、さらに Proxy がサービス実行コンポーネントを実行できるように構成されている必要があります。
- サービスに指定されているデータベース・ドライバーが、レジストリーにロードされている。

レジストリーに公開されているサービスしかスケジュールできません。Designer で開発中のサービスをスケジュールすることはできません。

サービスは、そのサービスが割り当て済みの Management Server ごとに 1 つのスケジュールを持つことができます。

Manager を使用してサービスをスケジュール設定するには、以下のようになります。

1. アプリケーション・サーバーの Manager にアクセスします。
2. 「サービス管理」をクリックします。
3. 「割り当て済みサービス」をクリックします。
4. 「割り当て済みサービス」フォルダーを開き、さらにそのフォルダーにある、サービスの表示に必要なすべてのフォルダーを開いてから、サービスをクリックします。
5. 「サービス計画」をクリックして、サービス計画プロパティを調べます。必要に応じて、サービス計画プロパティを変更してから「保存」をクリックして変更内容を保存します。サービス計画に加えた変更はすべて、サービス計画を再び変更するか、またはサービス計画をデフォルト値に復元するまで保存されます。
6. 「サービス・スケジュール」をクリックし、Management Server を選択します。サービスが割り当て済みの Management Server しか選択できません。選択した Management Server に関するアクティブなスケジュールが既にサービスにある場合、ウィザードにアクティブなスケジュールが表示されます。
7. 選択した Management Server に関するアクティブなスケジュールがサービスにない場合、「スケジュールの作成」をクリックします。
8. スケジュール詳細の入力または変更を行い「保存」をクリックします。

サービスの停止

レジストリーに公開されたサービスを Manager を使用して実行する場合、サービスの完了前に Manager を使用してサービスを停止できます。計画していた実行時間よりも長く実行されているサービスを停止することもできます。

停止できるのは、サービス・タイプが **Executor** のサービスのみです。サービスは、状態が「**開始**」の場合にのみ停止できます。

Designer から実行されているサービスは停止できません。

どのユーザーも、他のユーザーが実行またはスケジュール設定したサービスを停止できます。

サービスを停止しても、サービスがデータベースに対して行った変更は取り消されません。

Manager を使用して、実行中のサービスを停止するには、以下のようになります。

1. アプリケーション・サーバーの Manager にアクセスします。
2. 「サービス・モニター」をクリックします。
3. 「サービス・モニター」ページの上部にある表で、停止するサービスに対応するインスタンスをクリックします。停止するサービスに対応するインスタンスを表示するために、異なるサービス・モニター・フィルターを使用しなければならない場合があります。
4. 「停止」をクリックし、「OK」をクリックして確定します。

Manager を使用してサービス・インスタンスの状況をモニターする

Manager を使用することで、実行しているサービスの状況をモニターできます。

ダッシュボード

アプリケーション・サーバーの Manager にアクセスする際、「ダッシュボード」インターフェースを使用できます。「ダッシュボード」を使用すると、Manager、Manager に関連付けられた Management Server および Proxy、および Manager を使用して実行される任意のサービスの状況をモニターできます。

サービス・モニター

「サービス・モニター」では、サービスを実行するときに生成されるサービス・インスタンス・レコードを検討できます。サービス・インスタンス・レコードには、サービス・インスタンスごとの状況情報が格納されます。

サービス管理

「サービス管理」では、割り当て済みサービスと割り当解除済みサービスの比率、および作動不能のサービスと作動可能のサービスの比率を示すグラフを検討できます。

- 未割り当てサービスとは、リポジトリに公開されてはいても、まだ Management Server および Proxy には割り当てられていないサービスのことをいいます。
- 割り当て済みサービスとは、Management Server および Proxy に割り当てられたサービスのことをいいます。
- 作動不能のサービスとは、Management Server および Proxy に割り当てられているが、まだ実行の準備ができていないサービスのことをいいます。
- 作動可能のサービスとは、Management Server および Proxy に割り当てられていて、実行の準備ができていないサービスのことをいいます。実行の準備ができていないサービスは、以下のすべての基準を満たします。
 - サービスは、少なくとも 1 つの、アクティブで Manager に接続されている Management Server に割り当てられている。サービスを実行するためにライセンスが必要な場合、この Management Server には、サービスの有効なライセンスが含まれていることも必要です。
 - サービスは、少なくとも 1 つの、アクティブで Manager および Management Server に接続されている Proxy に割り当てられている。Proxy は、サービスに関連付けられたサービス・

タイプを実行できるようになっていることも必要です。サービス・タイプが「**Executor**」および「**Distributed**」の場合、サービス実行コンポーネントがインストールおよび構成されていて、さらに Proxy がサービス実行コンポーネントを実行できるように構成されている必要があります。

- サービスに指定されているデータベース・ドライバーが、リポジトリにロードされている。

割り当て済みまたは未割り当てのグラフをダブルクリックすると、サービスを Management Server および Proxy に割り当てることができる場所にジャンプできます。作動可能または作動不能のグラフをダブルクリックすると、作動可能なサービスを実行できる場所にジャンプできます。グラフの情報を表に表示するには、「**表形式ビュー**」をクリックします。

構成 「**構成**」では、Manager に追加された Management Server および Proxy の状況を検討できます。Manager と Management Server および Proxy との間の接続に問題がないかどうかを確認できます。接続の問題は、ネットワークに問題があることや、Management Server または Proxy が実行されていないことを示している場合があります。

サービス・モニター

「**サービス・モニター**」を使用して、サービス・インスタンス・レコードのリストを Manager に表示します。サービス・インスタンス・レコードは、サービスを実行するときに常に作成されます。サービス・インスタンス・レコードには、各サービス要求の状況と、そのサービス要求が正常に完了したかどうかが表示されます。

リスト内のサービス・インスタンスをクリックすると、サービスの処理方法に関するより詳細な情報をこのページの下部に表示することができます。サービスが正常に完了しない場合は、この情報を使用して問題を診断できます。

- 「**サービス結果 (Service Results)**」には、Executor を使用して実行された (サービス・タイプが **Executor** の) サービスの統計情報が表示されます。
- 「**サービス出力 (Service Output)**」には、Executor を使用して実行され、失敗したサービスのトレース・ログ出力と、Executor 以外のサービス実行コンポーネントを使用して実行されたサービスの結果出力が表示されます。

アプリケーション・サーバーの Manager にアクセスする場合、フィルターを作成して、このページの上部に表示されるサービス・インスタンス・レコードのタイプを制限できます。状況、サービス・タイプ、サービス要求タイプ、Management Server、およびサービス開始時刻に基づいてリストをフィルター処理できます。フィルターはユーザー・レコードに保存され、そのフィルターを削除するまで使用可能です。

第 5 章 コマンド行の処理の使用

コマンド行からサービス要求を Management Server にサブミットすることにより、1 つ以上のサービスを実行することができます。

サービスを実行する前に、Manager を使用して、サービスを Proxy および Management Server に割り当てる必要があります。サービス要求を処理するためには、Proxy と Management Server が実行中でなければなりません。コマンド行処理を実行するために必要なファイルを手入手するには、InfoSphere Data Architect および IBM Optim Designer もインストールする必要があります。

以下の 2 つの方法でコマンド行を使用できます。

- `runservice` スクリプトを使用すると、限られた引数を使用して実行サービスを入力できます。このスクリプトは、必要に応じてカスタマイズできます。
- `java -jar com-ibm-nex-client-tool.jar` コマンドを、独自に準備したスクリプトで使用できます。

runservice スクリプト

`runservice` スクリプトは、`ida_folder\optim\designer\runservice` フォルダーにあります。ここで、`ida_folder` は InfoSphere Data Architect がインストールされているフォルダーです。コマンド行を、`ida_folder\optim\designer\runservice` フォルダーで開く必要があります。このフォルダーには、2 つのスクリプト・ファイルが入っています。1 つは、Microsoft Windows 用 (`runservice.bat`) で、もう 1 つは AIX、Linux、および Solaris 用 (`runservice.sh`) です。

`runservice` スクリプトを使用するには、Java 6.0 JRE または JDK インストール済み環境のルート・フォルダーを `PATH` 環境変数に追加する必要があります。

Management Server および Proxy に割り当てられたサービスを実行する際、`runservice` スクリプトでは以下の構文を使用します。

```
runservice [--service | -s] servicename:version  
[--url | -u] serverURL [--continueOnError | -c]
```

`runservice` スクリプトは、ローカルの Management Server URL (`http://localhost:8080`) を使用します。リモートの Management Server を使用するには、`--url` パラメーターを使用する必要があります。

`--continueOnError` または `-c` パラメーターは、サービス実行のいずれかが失敗しても、複数のサービス実行にわたってスクリプトが続行するように設定します。

エクスポートされたサービス要求を実行する際、`runservice` スクリプトでは以下の構文を使用します。

```
runservice {-r|--serviceRequest} requestfilepath  
{-u|--url} serverURL {-j|--jarMap} jarfilepath  
{-v|--overrideValues} overridefilepath {-l|--logLevel} loglevel  
{-t|--timeout} seconds|never {-p|--serviceResponse} responsefilepath
```

`--serviceRequest` パラメーターまたは `-r` パラメーターを使用して、エクスポートされたサービス要求の完全ファイル・パスを指定します。

`--url` パラメーターまたは `-u` パラメーターを使用して、サービスの実行に使用する Proxy の場所を指定します。デフォルトで使用される場所は `http://localhost:12000` です。

`-jarMap` パラメーターまたは `-j` パラメーターを使用して、マップ・ファイルの完全ファイル・パスを指定します。

`-overrideValues` パラメーターまたは `-v` パラメーターを使用して、指定変更ファイルの完全ファイル・パスを指定します。

`-logLevel` パラメーターまたは `-l` パラメーターを使用して、使用するログ・レベルを指定します。指定可能な値は低いほうから高いほうに向かって、
OFF、SEVERE、WARNING、INFO、CONFIG、FINE、FINER、FINEST、ALL となります。

`-timeout` パラメーターまたは `-t` パラメーターを使用して、終了前に応答を待機する秒数（または待機しないこと）を指定します。デフォルトでは、`runservice` スクリプトは 600 秒待機します。

`-serviceResponse` パラメーターまたは `-p` パラメーターを使用して、サービスの応答を書き込むファイルの完全ファイル・パスを指定します。

java -jar com-ibm-nex-client-tool.jar コマンド

`com-ibm-nex-client-tool.jar` ファイルは、`ida_folder¥optim¥designer¥runservice` フォルダーにあります。ここで、`ida_folder` は InfoSphere Data Architect がインストールされているフォルダーです。コマンド行を、`ida_folder¥optim¥designer¥runservice` フォルダーで開く必要があります。

`java -jar com-ibm-nex-client-tool.jar` コマンドでは、以下の構文を使用します。ここで、`java_folder` は Java 6.0 JRE または JDK インストール済み環境のルート・フォルダーです。このコマンドを入力するたびに Java 6.0 JRE または JDK インストール済み環境のルート・フォルダーを入力しなくても済むようにするには、ルート・フォルダーを `PATH` 環境変数に追加します。

```
java_folder/java -jar com-ibm-nex-client-tool.jar
{--service | -s} servicename:version
{--url | -u} serverURL {--continueOnError | -c}
```

`--continueOnError` または `-c` パラメーターは、サービス実行のいずれかが失敗しても、複数のサービス実行にわたってコマンドが続行するように設定します。

複数のサービスの実行

コマンド行を使用して、同一の Management Server にデプロイされている、複数のサービスを実行することができます。

それぞれのサービスとバージョンの対を、コンマで区切って指定します。コンマの前後にスペースを残さないようにしてください。

例を挙げます。

```
runservice -s service1:1.0.0,service2:1.0.0 -u http://mymgmtserver:8080
```

サービス名に含まれるスペース

サービス名にスペースが含まれている場合、またはマルチバイト文字セット (MBCS) の文字が含まれている場合は、名前を二重引用符 (" ") で囲む必要があります。例を挙げます。

```
runservice -s "service name":1.0.0 -u http://mymgmtserver:8080
```

エクスポートされたサービス要求の実行

コマンド・ラインを使用して、ファイルにエクスポートされたサービス要求を実行できます。

例を挙げます。

```
runservice -r C:%services%service1.jar -u http://mygmtserver:12000
```

指定変更ファイル

指定変更ファイル とは、サービス要求パラメーターを含む XML ファイルです。エクスポートされたサービス要求の実行時に指定変更ファイルを指定すると、runservice ツールはエクスポートされたサービス要求の実行時の指定変更ファイル内にあるパラメーターを使用します。

runservice ツールを使用して、サービス要求のパラメーターを含む指定変更ファイルを生成できます。

```
runservice {-g|--generateOverrideTemplate} requestfilepath  
{-v|--overrideValues} overridefilepath {-i|--includeComments} {true|false}
```

-generateOverrideTemplate パラメーターまたは **-g** パラメーターを使用して、エクスポートされたサービス要求の完全ファイル・パスを指定します。

-overrideValues パラメーターまたは **-v** パラメーターを使用して、新規指定変更ファイルの完全ファイル・パスを指定します。

-includeComments パラメーターまたは **-i** パラメーターを使用して、指定変更ファイルにコメントを含めるかどうかを指定します。デフォルトでは、指定変更ファイルにコメントは入れません。

指定変更ファイルの生成後に、必要に応じて指定変更ファイル内のパラメーターを変更できます。サービス要求の実行時には、変更済みの指定変更ファイルを指定できます。そうすると、runservice ツールでは変更されたパラメーターを使用してサービス要求を実行します。

指定変更ファイルでは、サービス要求と同じ XML 名前空間 ([http:// www.ibm.com/nex/ecore/2.2.0/svc](http://www.ibm.com/nex/ecore/2.2.0/svc)) が使用されます。指定変更ファイルのルート・エレメントは常に **Overrides** です。一般的な形式は、指定変更グループと属性のネストした階層であり、これら指定変更グループと属性はサービス要求内にある指定変更グループと属性の記述子から派生したものです。runservice ツールによる指定変更テンプレートの生成時に、グループ要素と属性要素には、指定変更グループと属性の記述子名を使用した名前が付けられます。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>  
<svc:Overrides xmlns:svc="http://www.ibm.com/nex/ecore/2.2.0/svc">  
  <svc:ParentGroup uuid="...">  
    <svc:ChildGroup uuid="...">  
      <svc:Attribute1 value="..." uuid="..." />  
      <svc:Attribute2 value="..." uuid="..." />  
      <svc:Attribute3 value="..." uuid="..." />  
      ...  
    </svc:ChildGroup>  
    ...  
  </svc:ParentGroup>  
  ...  
</svc:Overrides>
```

指定変更ファイルは UTF-8 エンコードにしなければなりません。

マップ・ファイル

マップ・ファイルとは、サービス要求内の JDBC ドライバーと Proxy の JDBC ドライバーを一致させるために Proxy が使用するファイルです。サービス要求内の JDBC ドライバーがマップ・ファイル内の 1

つの行と一致すれば、Proxy ではマップ・ファイルのその行で指定された JDBC ドライバーを使用します。サービス要求内の JDBC ドライバーがマップ・ファイル内のどの行とも一致しなければ、Proxy ではサービス要求で指定された JDBC ドライバーそのものを使用します。(Proxy では、Proxy に JDBC ドライバーのより新しいバージョンが存在すればそれを使用するように構成できます。)

runservice ツールで使用されるマップ・ファイルは、標準的な Java .properties ファイルと非常によく似ています。空白行は無視されます。ポンド文字 (#) で始まる行はコメントとして扱われます。その他のすべての行は以下の形式に従う必要があります。

```
<regex>=<path>
```

<regex> は、有効な正規表現パターンであり、Designer が提供する .jar ファイル名との突き合わせに使用されます。<path> は、Proxy の実際の .jar ファイルの絶対パスです。

例えば、マップ・ファイルには以下のような行を記述します。

```
db2jcc4.*\.jar=/opt/IBM/sqllib/java/db2jcc4.jar
db2jcc4_license_cu.*\.jar=/opt/IBM/sqllib/java/db2jcc4_license_cu.jar
```

サービス要求で JDBC ドライバー db2jcc4-9.1.jar を使用するように設定されている場合、Proxy では JDBC ドライバー /opt/IBM/sqllib/java/db2jcc4.jar を使用してサービス要求を実行します。サービス要求で JDBC ドライバー db2jcc4_license_cu-9.1.jar を使用するように設定されている場合、Proxy では JDBC ドライバー /opt/IBM/sqllib/java/db2jcc4_license_cu.jar を使用してサービス要求を実行します。

パスワードの暗号化

runservice ツールを使用して、サービス要求の平文パスワードの暗号化ができます。

```
runservice {-e|--encryptPassword} password
```

-encryptPassword パラメーターまたは -e パラメーターを使用して、エクスポートされたサービス要求の完全ファイル・パスを指定します。

開始表の参照

runservice ツールを使用して、サービス要求の開始表 (およびその他の表) を表示できます。

```
runservice {-a|--startTable} requestfilepath
{-o|--otherTables } {true|false}
```

-startTable パラメーターまたは -a パラメーターを使用して、エクスポートされたサービス要求の完全ファイル・パスを指定します。

-otherTables パラメーターまたは -o パラメーターを使用して、サービス要求内のその他の表を出力に含めるかどうかを指定します。デフォルトでは、すべての表が入ります。

サービス要求の表示

runservice ツールを使用して、サービス要求の情報を表示できます。

```
runservice {-d|--displayService} requestfilepath
{-x|--xsltStylesheet} stylesheetpath
```

-displayService パラメーターまたは -d パラメーターを使用して、エクスポートされたサービス要求の完全ファイル・パスを指定します。

-xsltStylesheet パラメーターまたは -x パラメーターを使用して、サービス要求のフォーマット設定に使用する XSLT スタイル・シートの完全ファイル・パスを指定します。

コマンド行のパラメーター

Management Server コマンドの各パラメーターには、長いバージョンと省略されたバージョンの両方があります。長いバージョンは前に 2 つのダッシュが付きます (--service など)。省略バージョンは 1 つのダッシュの後に単一の文字が続きます (-s など)。

--service | -s

servicename:version

データ管理サービスの名前およびバージョン番号 (*n.n.n* 形式で)。(必須)

サービス名は、大/小文字が区別されます。サービス名にスペースが含まれている場合、またはマルチバイト文字セット (MBCS) の文字が含まれている場合は、名前を二重引用符で囲む必要があります。

例えば、-s demosvc:1.0.0 などです。

--url | -u

URL Management Server の URL。コマンド行に com-ibm-nex-client-tool.jar ファイルを入力した場合、このパラメーターは必須です。runservice スクリプトは、次の URL をデフォルトとして使用します: http://localhost:8080/server/job。デフォルトの URL が使用されない場合には、この URL パラメーターを runservice スクリプトで使用します。

Management Server は以下の URL を使用します。ここで、hostname は Management Server のマシン名であり、port は Management Server が使用するポート番号です (8080 がデフォルト)。

http://hostname:port/server/job

例えば、-u http://server1:8080/server/job などです。

--continueOnError | -c

このパラメーターは、サービス実行のいずれかが失敗しても、複数のサービス実行にわたってコマンドが続行するように設定します。

コマンド行の例

このセクションでは、Management Server コマンドを使用してサブミットされるサービス要求の例を示します。

以下の構文では、サービスを実行するために java -jar com-ibm-nex-client-tool.jar コマンドを使用しています。ここで、..¥..¥..¥..¥Java60¥jre¥bin¥ は、com-ibm-nex-client-tool.jar ファイルが入っているフォルダーから Java 6.0 JRE インストール済み環境が入っているフォルダーへの相対パスです。

```
..¥..¥..¥..¥Java60¥jre¥bin¥java -jar com-ibm-nex-client-tool.jar -s service1:1.0.0 -u http://localhost:8080/server/job
```

以下の構文では、runservice スクリプトを使用して、Management Server がデフォルト URL を使用しないサービスを実行します。

```
runservice -s service1:1.0.0 -u http://server1:8080/server/job
```

以下の構文では、runservice スクリプトを使用して複数のサービスを実行します。

```
runservice -s service1:1.0.0,service2:1.2.0
```

以下の構文では、runservice スクリプトを使用してサービス名の中にスペースがあるサービスを実行します。

```
runservice -s "service one":1.0.0
```

付録. Optim Manager のユーザー・インターフェースのリファレンス

IBM Optim Manager には、以下の要素が含まれます。

- ダッシュボード
- 構成
- サービス管理
- サービス・モニター
- 設定

ダッシュボード

アプリケーション・サーバーの Manager にアクセスする際、「ダッシュボード」インターフェースを使用できます。「ダッシュボード」を使用すると、Manager、Manager に関連付けられた Management Server および Proxy、および Manager を使用して実行される任意のサービスの状況をモニターできます。

サービス・モニター

「サービス・モニター」では、サービスを実行するときに生成されるサービス・インスタンス・レコードを検討できます。サービス・インスタンス・レコードには、サービス・インスタンスごとの状況情報が格納されます。

サービス管理

「サービス管理」では、割り当て済みサービスと割り当解除済みサービスの比率、および作動不能のサービスと作動可能のサービスの比率を示すグラフを検討できます。

- 未割り当てサービスとは、リポジトリに公開されてはいても、まだ Management Server および Proxy には割り当てられていないサービスのことをいいます。
- 割り当て済みサービスとは、Management Server および Proxy に割り当てられたサービスのことをいいます。
- 作動不能のサービスとは、Management Server および Proxy に割り当てられているが、まだ実行の準備ができていないサービスのことをいいます。
- 作動可能のサービスとは、Management Server および Proxy に割り当てられていて、実行の準備ができていないサービスのことをいいます。実行の準備ができていないサービスは、以下のすべての基準を満たします。
 - サービスは、少なくとも 1 つの、アクティブで Manager に接続されている Management Server に割り当てられている。サービスを実行するためにライセンスが必要な場合、この Management Server には、サービスの有効なライセンスが含まれていることも必要です。
 - サービスは、少なくとも 1 つの、アクティブで Manager および Management Server に接続されている Proxy に割り当てられている。Proxy は、サービスに関連付けられたサービス・タイプを実行できるようになっていることも必要です。サービス・タイプが「**Executor**」および「**Distributed**」の場合、サービス実行コンポーネントがインストールおよび構成されていて、さらに Proxy がサービス実行コンポーネントを実行できるように構成されている必要があります。
 - サービスに指定されているデータベース・ドライバーが、リポジトリにロードされている。

割り当て済みまたは未割り当てのグラフをダブルクリックすると、サービスを Management Server および Proxy に割り当てることができる場所にジャンプできます。作動可能または作動不能のグラフをダブルクリックすると、作動可能なサービスを実行できる場所にジャンプできます。グラフの情報を表に表示するには、「**表形式ビュー**」をクリックします。

構成 「**構成**」では、Manager に追加された Management Server および Proxy の状況を検討できます。Manager と Management Server および Proxy との間の接続に問題がないかどうか確認できます。接続の問題は、ネットワークに問題があることや、Management Server または Proxy が実行されていないことを示している場合があります。

構成

アプリケーション・サーバーの Manager にアクセスする際、「**構成**」インターフェースを使用できます。「**構成**」を使用すると、Manager、Management Server、および Proxy の間の接続を表示および構成できます。

Manager に対する管理者権限を持つユーザーは、「**構成**」を使用して以下のタスクを実行できます。

- Management Server および Proxy を追加する。
- Management Server のライセンスを追加する。

管理者は、Manager によって使用されるレジストリーの場所の設定後すぐに、Management Server、Proxy、およびライセンスを追加できます。ユーザーが Manager を使用してサービスを実行するためには、どんな場合も、管理者が先に少なくとも 1 つの Management Server と Proxy を追加しておく必要があります。

次のロールを持つユーザーは、「**構成**」を使用してデータベース・ドライバーをレジストリーにアップロードできます。

- Manager に対する管理者権限を持つユーザー (ユーザー・ロール admin)
- Manager に対するデータベース管理者権限を持つユーザー (ユーザー・ロール dba)

すべての Manager ユーザーが、「**構成**」タブで構成情報を参照できます。

サービス管理

「**サービス管理**」を使用して、サービスの構成、実行、および管理を行います。

Designer からアクセスする場合

Designer から Manager にアクセスした場合、「**サービス管理**」には、現在 Designer に存在するサービスがリストされます。「**サービス管理**」を使用して、サービスの実行、「**設定**」で設定されているレジストリーへのサービスの公開、またはファイルへのサービスのエクスポートを行えます。

アプリケーション・サーバーにアクセスする場合

アプリケーション・サーバー上の Manager にアクセスする場合、「**サービス管理**」にある次の 2 つのセクションを使用します。

- レジストリー内のサービスのリストを表示するセクション (ここには、「**未割り当てサービス**」タブと「**割り当て済みサービス**」タブがあります)
- 1 番目のセクションで選択したサービスに関する詳細情報を表示するセクション

Management Server と Proxy にまだ割り当てられていないサービスは「未割り当てサービス」タブに表示されます。 Management Server と Proxy に割り当てられているサービスは「割り当て済みサービス」タブに表示されます。

サービスを選択すると、選択したサービスに関する以下のような追加情報が表示されます。

- 「**割り当ての詳細 (Assignment Details)**」には、選択したサービスが割り当てられている Management Server と Proxy が表示されます。Management Server または Proxy を選択して、その Management Server または Proxy に関する追加の詳細を表示できます。これらの詳細を使用して、サービスの実行を妨げる問題を診断できます。
- 「**サービス計画**」には、選択したサービスのサービス計画が表示されます。サービス計画には、サービスの実行に使用されるパラメーターが含まれます。サービスが Management Server と Proxy に割り当てられている場合は、サービスの実行に使用されるパラメーターを変更できます。また、パラメーターをデフォルト値にリセットすることもできます。(Management Server と Proxy にまだ割り当てられていないサービスのサービス計画パラメーターは変更できません。)
- 「**サービス・スケジュール**」には、選択したサービスの既存のすべてのスケジュールが表示されます。選択したサービスは、そのサービスが割り当てられた Management Server ごとに 1 つ、スケジュールに入れることができます。

サービス・モニター

「サービス・モニター」を使用して、サービス・インスタンス・レコードのリストを Manager に表示します。サービス・インスタンス・レコードは、サービスを実行するときに常に作成されます。サービス・インスタンス・レコードには、各サービス要求の状況と、そのサービス要求が正常に完了したかどうかが表示されます。

リスト内のサービス・インスタンスをクリックすると、サービスの処理方法に関するより詳細な情報をこのページの下部に表示することができます。サービスが正常に完了しない場合は、この情報を使用して問題を診断できます。

- 「**サービス結果 (Service Results)**」には、Executor を使用して実行された (サービス・タイプが **Executor** の) サービスの統計情報が表示されます。
- 「**サービス出力 (Service Output)**」には、Executor を使用して実行され、失敗したサービスのトレース・ログ出力と、Executor 以外のサービス実行コンポーネントを使用して実行されたサービスの結果出力が表示されます。

アプリケーション・サーバーの Manager にアクセスする場合、フィルターを作成して、このページの上部に表示されるサービス・インスタンス・レコードのタイプを制限できます。状況、サービス・タイプ、サービス要求タイプ、Management Server、およびサービス開始時刻に基づいてリストをフィルター処理できます。フィルターはユーザー・レコードに保存され、そのフィルターを削除するまで使用可能です。

設定

Manager 用の優先される操作設定値を設定する場合は、「設定」を使用します。

グローバル設定

Designer から Manager にアクセスした場合、またはアプリケーション・サーバーの Manager に管理者がアクセスした場合には、「**グローバル設定**」が使用可能です。

- Designer ユーザーは「**グローバル設定**」を使用して、サービスを公開できるレジストリーの場所を設定できます。Designer ユーザーは、Manager が表示を更新する時間間隔も設定できます。
- 管理者は「**グローバル設定**」を使用して、Manager から実行できるサービスのあるレジストリーの場所を設定できます。管理者は、すべての Manager ユーザーのデフォルト時間間隔を設定したり、Manager のセキュリティ設定値 (タイムアウトなど) を設定したりすることもできます。

ユーザー設定

アプリケーション・サーバーの Manager にアクセスした場合、「**ユーザー設定**」が使用可能です。各ユーザーは、Manager が表示を更新する時間間隔の「**ユーザー設定**」を設定できます。

表示設定

各ユーザーは、「**表示設定**」を使用して、ローカル・コンピューターで使用するカラー・スキームとフォント・サイズを設定できます。各ユーザーは、表示させたい確認ダイアログも選択できます。

特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものです。

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒242-8502

神奈川県大和市下鶴間1623番14号

日本アイ・ビー・エム株式会社

法務・知的財産

知的財産権ライセンス渉外

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。 IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Corporation

Software Interoperability Coordinator, Department 49XA

3605 Highway 52 N

Rochester, MN 55901

U.S.A.

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができますが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性があります。その測定値が、一般に利用可能なシステムのものと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確証できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者をお願いします。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があります、単に目標を示しているものです。

表示されている IBM の価格は IBM が小売り価格として提示しているもので、現行価格であり、通知なしに変更されるものです。卸価格は、異なる場合があります。

本書はプランニング目的としてのみ記述されています。記述内容は製品が使用可能になる前に変更になる場合があります。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

著作権使用許諾:

本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証することはできません。

それぞれの複製物、サンプル・プログラムのいかなる部分、またはすべての派生的創作物にも、次のように、著作権表示を入れていただく必要があります。

© (お客様の会社名) (西暦年). このコードの一部は、IBM Corp. のサンプル・プログラムから取られています。 © Copyright IBM Corp. _年を入れる_. All rights reserved.

この情報をソフトコピーでご覧になっている場合は、写真やカラーの図表は表示されない場合があります。

商標

IBM、IBM ロゴおよび ibm.com[®] は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corp. の商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれ IBM または各社の商標である場合があります。現時点での IBM の商標リストについては、<http://www.ibm.com/legal/copytrade.shtml> をご覧ください。

Adobe は、Adobe Systems Incorporated の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Java は、Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標です。

Linux は、Linus Torvalds の米国およびその他の国における商標です。

Microsoft および Windows は、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

索引

日本語, 数字, 英字, 特殊文字の順に配列されています。なお, 濁音と半濁音は清音と同等に扱われています。

[カ行]

コマンド行の処理

概要 19

パラメーター 23

例 23

com-ibm-nex-client-tool.jar 20

java -jar com-ibm-nex-client-tool.jar 20

runservice スクリプト 19

[サ行]

サービス

サービス計画の変更 13

実行 15

スケジューリング 16

停止 17

Management Server および Proxy への
割り当て 12

サービス計画

変更 13

[タ行]

データ管理サービス

サービス計画の変更 13

実行 15

Management Server および Proxy への
割り当て 12

データベース・ドライバー

リポジトリへの追加 12

[マ行]

モニター

Manager 17

Optim Manager 17

Optim ランタイム環境 17

[ラ行]

リポジトリ

そこへのデータベース・ドライバーの
追加 12

リポジトリ (続き)

定義 2

レジストリー

そこへの Management Server ライセン
スの追加 10

その場所の設定 9

定義 2

C

com-ibm-nex-client-tool.jar 20

E

Executor

他のコンポーネントとの相互作用 3

executor

定義 2

J

java -jar com-ibm-nex-client-tool.jar 20

M

Management Server

サービスの割り当て 12

他のコンポーネントとの相互作用 3

定義 1

レジストリーへのライセンスの追加
10

Optim Manager への追加 10

Manager

構成 9

「構成」インターフェース 26

「サービス管理」インターフェース
26

サービスのサービス計画の変更 13

サービスの実行 15

サービスのスケジューリング 16

サービスの停止 17

「サービス・モニター」インターフェ
ース 27

使用 15

「設定」インターフェース 27

そこへの Management Server の追加
10

「ダッシュボード」インターフェース
25

他のコンポーネントとの相互作用 3

Manager (続き)

定義 1

Proxy の追加 11

Manager の「構成」インターフェース
26

Manager の「サービス管理」インターフ
ェース 26

Manager の「サービス・モニター」イン
ターフェース 27

Manager の「設定」インターフェース
27

Manager の「ダッシュボード」インター
フェース 25

O

Optim Executor

定義 2

Optim Management Server

定義 1

Optim Manager

サービスのサービス計画の変更 13

サービスの実行 15

サービスのスケジューリング 16

サービスの停止 17

使用 15

そこへの Management Server の追加
10

他のコンポーネントとの相互作用 3

定義 1

Proxy の追加 11

Optim Manager構成 9

Optim Proxy

定義 2

P

Proxy

サービスの割り当て 12

他のコンポーネントとの相互作用 3

定義 2

Manager への追加 11

R

runservice スクリプト 19



Printed in Japan